

次なる茨木グランドデザイン



イバラキ  
クラウド

# 次なる茨木グランドデザイン

次なる茨木グランドデザインは「中心市街地活性化基本計画」の推進に向け、茨木市の中心市街地における「まちの将来像＝次なる茨木」の姿を示すとともに、市民、民間、行政など、多様な人々が関わりを持ち、共有、発展させていながら「まちづくり」に取り組んでいくことを目指していきます。

## ミッション

都市と自然・文化が共生する  
「エリア」をデザインする

各取り組みを「点」で終わらせることなく  
「線」でつなぎ「面」へと波及させる

市民のニーズに呼应し  
主体的に活動を行える「場」を創出する

「茨木らしい」幸せ・豊かさを共感できる“まちなか”の実現

## みんなと一緒に作りあげていく

次なる茨木グランドデザインでは、多様な人々とともに「まちの将来像」を描きだし、さまざまな活動や体験を推進力にした「まちづくり」を実践していきます。

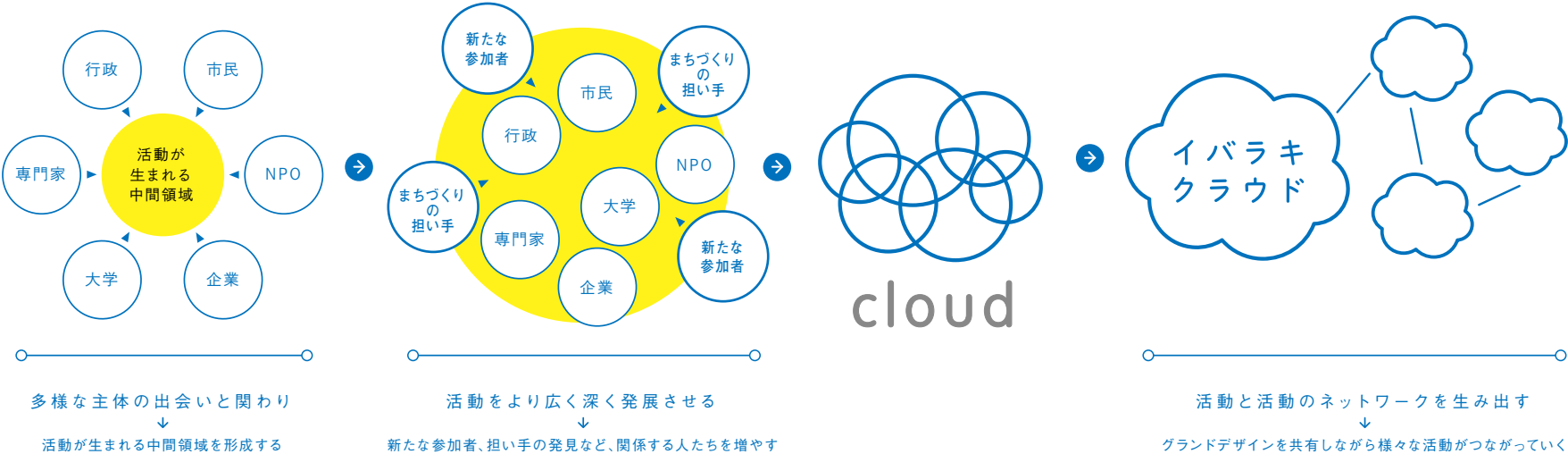
## 活動や体験から導き出された成果や課題をフィードバックさせる

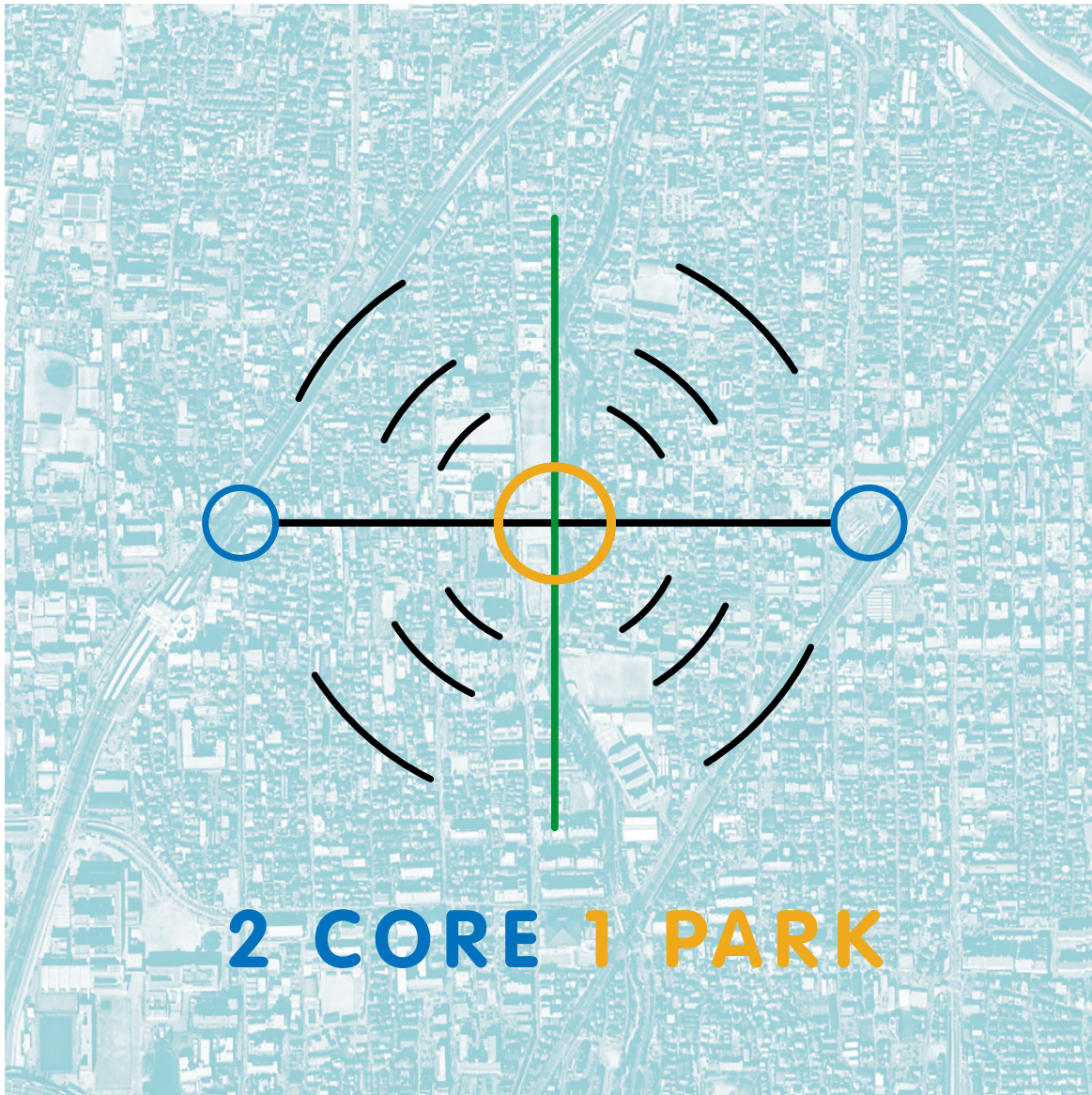
完成を目指すというよりも、変化する社会の動向や価値観に対応し、絶えずアップデートを繰り返しながらグランドデザインへとつなげていきます。

# イバラキクラウド

## 人と人、活動と活動をつなぐ

次なる茨木グランドデザインは、さまざまな社会実験やワークショップなどを通じて多様な主体が出会い、活動が生まれる「場＝中間領域」を創出します。さらに、それらの活動を一過性に終わらせることなく、より深く発展させるためのプラットフォームが「イバラキクラウド」。新たな参加者や担い手の発見を促し、人と人、活動と活動をつなぐネットワークを生み出していきます。



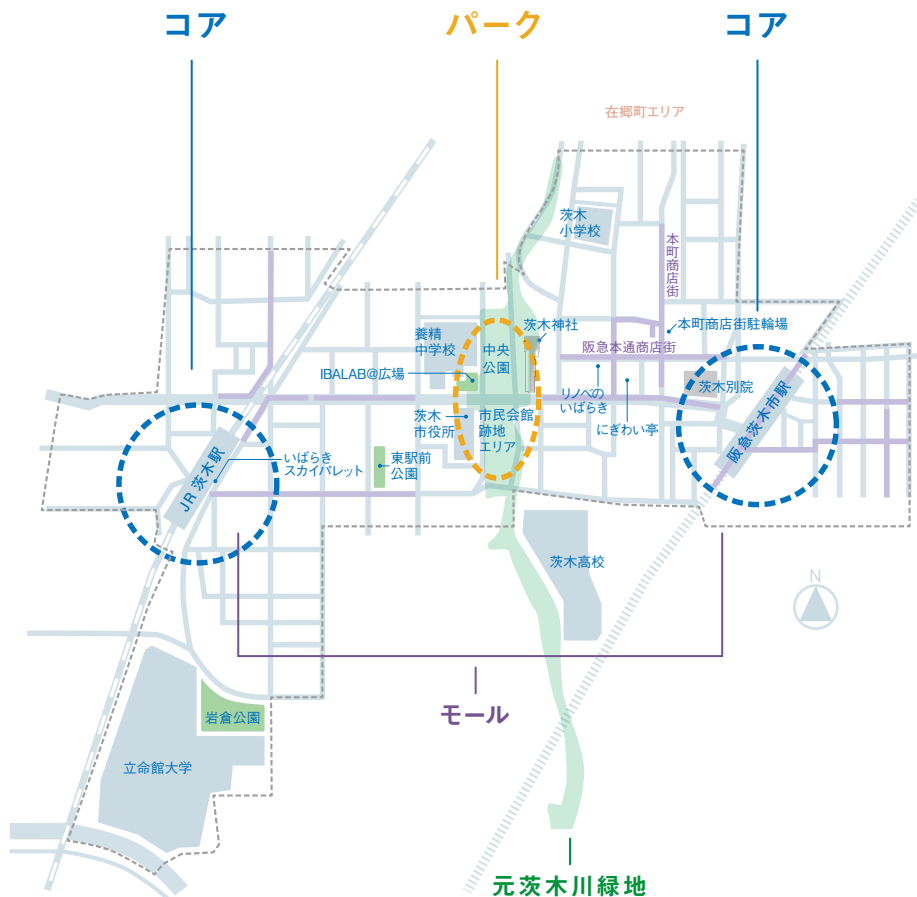


**中心市街地を「2コア1パーク」の  
都市構造で捉え、  
ランドデザインの骨格を形成していく。**

茨木市の中心市街地は、広域交通のアクセス点である阪急茨木市駅とJR茨木駅が東西に位置し、その中間地点には、市役所をはじめとする行政施設、市民会館跡地エリア、中央公園、そこから南北へ延びる元茨木川緑地には、豊かな自然と文化が醸成されています。茨木市では、両駅周辺のエリアを「コア」、中央の市役所や広場、元茨木川緑地周辺のエリアを「パーク」と位置づけ、「2コア1パーク」による都市構造の実現に向けた、さまざまな事業や取り組みを推進し、中心市街地の活性化を目指しています。

次なる茨木ランドデザインでは、交通の利便性や商業施設による賑わいといった「都市的要素」と緑地・広場での憩いの空間、歴史と触れ合う町並みなどの「自然・文化的要素」を共生させ、新たな連続性を見出し、人々の出会いや活動が生まれる「中間領域」を創出していきます。また、それぞれの場所で起きる変化や更新される出来事を「点」で終わらせることなく、「線」でつなぎ、エリア全体に「面」へと波及させていきます。

## 「2コア1パーク」の都市構造



## 【2コア】駅前整備による魅力向上

阪急茨木市駅、JR茨木駅の両駅周辺の「2コア」では、医療福祉や子育て等、市民の生活利便に応える施設機能を組み込み、市民の定期的な来訪の増加を図るとともに、交通や商業などの機能性だけではなく、居心地の良い憩える空間づくりを行っていきます。

### JR 茨木駅周辺

恵まれた交通環境、6大学11高校が立地する知的資源、活発な市民活動や企業等が連携し、将来にわたって市民の暮らしに寄り添い、生活に彩りを持たせる取り組みを展開することで、魅力的な拠点づくりを目指します。

だけれども、いつでも、どこへでも、つながることができる

### 暮らしの質を高める対流型駅まち空間

- ① さらなる交通環境の向上
- ② 多様な都市機能の集積
- ③ 持続性のある魅力・賑わいの創出
- ④ 安全安心な駅前に向けた防災性の向上

### 阪急茨木市駅周辺

高い利便性と市民生活を支える拠点としての役割を担い続けるとともに、周辺にある商店街、社寺などの歴史的資源などとのつながりを見据え、回遊性を高めることで地域全体の魅力向上と活性化を目指します。

市民生活を支える  
駅機能の強化

周辺地域とのつながりによる  
地域全体での  
魅力向上・活性化

市民ニーズに応え  
暮らしに憩いと  
彩りをもたらす

## 【1パーク】公共空間の積極的な利活用

エリアの中央にある公園や緑地等の公共空間「1パーク」では、市民会館跡地エリアの活用を契機に、定期的なイベントやマーケットなどの開催といった多様な活用を可能とし、中央へと歩いて訪れる目的をつくることで、恒常的な賑わい創出を図っていきます。また、数々の社会実験を通じて培われてきた、イバラキクラウドによる多様な主体の活動やネットワークを推進力とし、エリア全体の活性化につなげていきます。

### 東西軸／モール

2つの「コア」を東西に結ぶストリートを「モール」として位置づけ、「パーク」から生み出される、多様な主体による活動の成果や知見を、まちなかへとフィードバックさせるとともに、歩きたくなる空間デザインのストリートにしていくことで、商店街をはじめとする商業空間や公共施設との連続性を形成していきます。

### 南北軸／元茨木川緑地

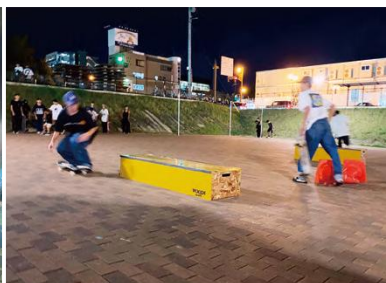
エリアを南北に横断する「元茨木川緑地」は、豊かな緑やさくら並木など市民に親しまれている茨木市を代表する空間。「パーク」に自然を取り入れることで、安らぎや憩いを提供し、ゆったりと散策したり、文化や教養に触れることができる「ウォークラブルなまちづくり」を目指します。同時に、老木の増加や施設の老朽化が進みつつある緑地の再生を目指し、市民と識者とともに「元茨木川緑地リ・デザイン計画」を推進しています。



まちの真ん中であつたらうれしい場所を  
みんなと一緒につくる「育てる広場」。



平成27年に閉館することとなった市民会館は、単に建物を建て替えるのではなく、中央公園や南グラウンドまでを「市民会館跡地エリア」として整備を行うことになりました。市民会館100人会議や市民アンケートをはじめ、多くの方々と対話を重ねて生み出されたコンセプトは「育てる広場」。多様な人々が関わりを持ちながら「あつたらうれしい場所」を、みんなと一緒につくっていく。その実現に向けて、ワークショップや広場を活用した社会実験など、さまざまな取り組みを進めてきました。やってみたいことを実際にやってみる。そのプロセスにおいて導き出される、人々とのつながり、共有されるアイデアやビジョンを大切に育てていきます。「つかう」「つくる」を繰り返しながら常にアップデートを続ける広場。次なる茨木グランドデザインでは、このエリアを「パーク」と位置づけ、まちの真ん中から茨木市の未来図を描き出していきます。



## さらにアップデートした育てる広場 令和5年秋にオープンする新施設「おにクル」。

「育てる広場」というコンセプトのもと、平成30年に行った社会実験「IBALAB」を皮切りに多様な人々による、さまざまな活動やワークショップ、社会実験を繰り返しながら、まちの真ん中であつたらうらしい場所を、みんなと一緒に考えて、つくり上げてきました。

それら数々の体験から生み出された「みんなの想い」を紡ぎ合わせて構想された新施設「おにクル」が、令和5年秋にオープンします。おにクルは、訪れる目的が一人ひとり違っていても、常にいろいろな発見と偶然の出会いがあり、人やまちとのつながりがゆるやかに広がっていく、そんなイメージを「立体的な公園のような空間」として設計に反映しています。やりたいことや過ごし方など、多様な可能性を見出し、できることを増やしていく新しい場所。さらにアップデートした育てる広場を大切に育み、茨木のシンボルとして成長させていきたいと考えています。



ランドスケープと建築が相互に浸透し合う立体的な公園のような空間となり、各階の機能を縦につなぐ「縦の道」を中心に様々なプログラムが溶け合います。1階には、芝生広場まで連続した使い方ができる開閉可能な多目的ホールなどがあり、開放的な空間が広がります。2階はえほん広場や検診、相談といった様々な子育て支援機能を備えた空間を、3階はリハーサル室などクリエイティブな交流の場に。4階は市民が使いやすい1,200席の大ホール、5～6階には各階の機能をつなぐ図書館のメインフロアが入り、最上階(7階)には和室に面した屋上広場や市民活動センターが、市民のみなさんの様々な交流を促します。



竹中工務店 設計部  
市川雅也さん / Masaya Ichikawa

都市の骨格になっている元茨木川緑地やキャンパスとの一体化を図った岩倉公園など、「パブリックスペースの変革に挑戦できる土壌」と「それらを豊かに使いこなす住民の高い感性」が茨木の魅力だと思います。イベントで賑わう広場も好きですが、佇んでいたり、ダンスをしていたり、その様子を眺めながら真似をする子供がいたり...広場を利用することが当たり前の日々になっている風景が大好きです。おにクルではIBALAB@広場で紡ぎあげてきた想いをかたちに、より豊かな未来を創造できるような「茨木らしいプレイスメイキング」を皆さんと実現したいと思っています。



伊東豊雄建築設計事務所  
神崎夏子さん・阿部りささん / Natsuko Kanzaki / Risa Abe

茨木に住むようになり、商店でお裾分けを頂いたり、仕事頑張って、と声を掛けて頂いたりすることがあります。個人の方の顔が見えることは、茨木の魅力だと思います。設計コンセプトである「日々誰かと出会い、何かが起こる」という言葉は、この程よいスケールの茨木だからこそ実現できるかもしれません。また、「おにクル」は建物の中を公園のように自由に歩き回ることが出来るようになっています。どんな方でも居場所を見つけ、「自分の家」のように愛着をもって育てて頂きたいです。「おにクル」が愛情のこもったシンボルになることを願っています。



元茨木川緑地の豊かな自然を活かして  
多様性と連続性を備えた「パーク」を実現させる。

市街地を南北に貫く全長約5kmの元茨木川緑地は、美しく豊かな木々に包まれ、多種多様な植物や野鳥が息づく茨木市の貴重な自然環境資源。まちの中心にこれだけの長い緑地帯があることは珍しく、自然を身近に感じることができるとして多くの人々に親しまれています。次なる茨木ランドデザインでは、市民会館跡地エリアにおける「育てる広場」との複合的な連動を図り、さまざまな取り組みや活動を通じて、この恵まれた自然が、さらに市民の暮らしと密接に関わり合って「憩い」「賑わい」「交流」「創造」といった循環が生み出される空間づくりを目指しています。

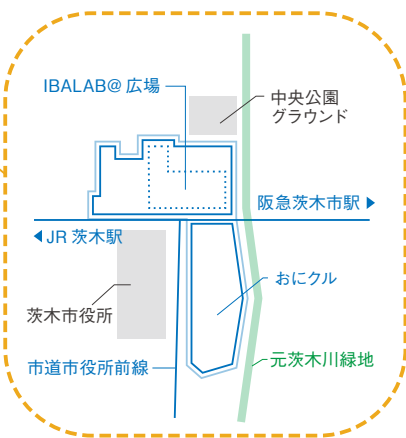






広場  
+  
おにクル  
+  
元茨木川緑地

# PARK



平成30年より「市民会館跡地エリア」をフィールドに、さまざまな活動や社会実験を通じて「育てる広場」の実現を目指してきました。令和5年には、新施設「おにクル」がオープン。そして、次なる茨木ランドデザインでは、成長を続ける「広場」のさらなるアップデートを見据え、元茨木川緑地の豊かな自然環境を取り入れたエリアデザインを推進しています。「広場」「おにクル」「元茨木川緑地」が一体となり、まちの真ん中に、茨木市民の誇りとなる「パーク」を出現させていきたいと考えています。

## 恵まれた自然を次世代へと継承するために 「元茨木川緑地リ・デザイン」による新たな価値創出。

元茨木川緑地では、開設から約40年の経過にともなって老朽化した施設や植栽を見直すとともに、次世代の市民に継承するための持続可能な場の形成を目指して「元茨木川緑地リ・デザイン計画」を平成31年にスタートさせました。基本方針は「植栽環境の健全化」「文化を育む仕組みづくり」「利活用空間の創出」。専門分野の方々の知見にもとづいたランドスケープ構想、市民参画による植栽管理ガイドラインの策定をはじめ、ワークショップや社会実験などによる多様な人々の活動を通じて培われてきたノウハウを活用し、元茨木川緑地の「新たな価値」を創出していきたいと考えています。





新たな駅前空間の創出を促し、  
「2コア1パーク」を最大限に発揮するための拠点づくり。

茨木市の玄関口である「阪急茨木市駅」と「JR茨木駅」の両駅においては、駅前機能の老朽化による魅力や賑わいの低下、社会動向や安全安心に対する意識の変化など、さまざまな課題を見据えた再整備が求められています。次なる茨木グランドデザインでは、人々の回遊・滞在・交流・活動が生まれる「新たな駅前空間の創出」を促し、「2コア1パーク」の都市構造を最大限に発揮するための拠点づくりに取り組んでいます。

## JR 茨木駅西口駅前周辺が

### 「どのようになればいいか」

行政と市民が一体となって将来イメージを描いていく。

茨木市では、令和3年にまちづくりの方向性やまちの将来像を掲げた「JR 茨木駅西口駅前周辺まちづくりビジョン」を策定。それを踏まえ、令和4年にスタートした「JR 茨木駅西口周辺まちづくりワークショップ」では、地元で暮らす方々や学生をはじめ、多様な人々が参加し、まち歩きや模型作りなどの体験を通じて「駅周辺がどのようになればよいか」「どう過ごしたいか」といったアイデアを出し合い、それを重ね合わせたイメージ図を作成。今後の再整備に向けた検討に役立てていきます。



## ワークショップに参加してくださったみなさんから

“

JR茨木は、様々な年代の人が利用する駅なので、ワークショップやコワーキング、シェアスペースなど、それぞれがフレキシブルに活用できて、自分の時間を豊かに過ごすことができる場所があったらいいなと思いました。

“

「芝生のあるオープンカフェで過ごす」という提案があり賛同しました。海外には多く見られる光景ですが、日本ではまだ少ないと感じています。そのような場所、風習や文化が茨木に定着していけばいいですね。

“

新しいJR茨木駅西口は、緑が広がって、見通しがよく、森のような広場がある。そんな景観に変われば、初めて茨木にきた人や旅行から帰ってきた時に「やっぱり茨木はいいまちだな」と感じることができると思います。

“

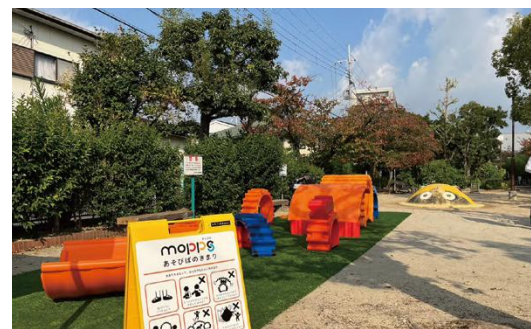
エキスポロードは、周りの環境も良く、歩道も広い。そこが並木道になって、心踊るようなカフェやショップなどができ、人々が自然に集まってくる光景が見られれば、本当に素敵なまちになるのではないかなと期待しています。



立命館大学建築都市デザイン学科准教授

阿部俊彦 先生 / Toshihiko Abe

まちの顔としての駅前空間は、従来の効率性を優先した「交通結節点」としての役割だけでなく、近年は、「快適に過ごせる居場所」として再整備していくことが求められています。地域住民や駅を利用する方々が、自らデザインに参加して頂くために、模型を使ったワークショップを企画しました。キャンパスに通う学生もその一員として参加し、キャンパスシティとして茨木をイメージしながら意見や提案を出し合うことで、ニーズやアイデアが浮き彫りになりました。今後も、茨木のまちづくりを通じて、学生たちが成長できる機会をつくっていききたいと思います。



メインストリートの可能性を導き出し、  
それぞれの拠点を「線」でつなぎ「面」へと広げていく。

「市民会館跡地エリア」をはじめ、令和5年に完成する新施設「おにくる」「元茨木川緑地・デザイン」など、まちの中央における拠点づくり。そして、阪急茨木駅、JR茨木駅の両駅で推進する「新たな駅前空間」としての拠点づくり。次なる茨木グランドデザインでは、それぞれの拠点を「線」でつなぎ「面」へと広げていくために、さまざまな取り組みや活動を通じてメインストリートの可能性を導き出していきます。



## より多くの人を訪れ、滞在し、活動したくなる「まちなか」の実現に向けて、新たなストリート空間を生み出す。

「2コア1パーク」の構想に欠かすことができない、各拠点をつなぐ中央通りと東西通り。令和3年に開催した「いばらきストリートデザインワークショップ」では、中心市街地により多くの人を訪れ、滞在し、活動したくなる「まちなか」の実現に向けて、ストリートの将来像などを検討。さらに令和4年には、空間のあり方を実際に試してみるため、行政、市民、沿道の事業者が一緒になって、ベンチや遊具などのファニチャーを各所に設置するなど、メインストリートを活用した社会実験を実施しました。これからも、魅力的なメインストリートづくりの取り組み「茨木みちクラブプロジェクト」を進めていきます。



京都大学大学院地球環境学堂 准教授

山口敬太 先生 / Keita Yamaguchi

茨木の10～20年後の中央通り・東西通りを想像してみましょう。多くの人が行き交い、人々の活動する姿が見える中央通り。緑にあふれる公園のような東西通り。ところどころに、人と人の出会いや交流が生まれるようなスポットが。ワークショップでは様々なアイデアが出され、社会実験では歩きたくなるまちの可能性が示されました。ひとつ、そしてまたひとつ、ワクワクをつくっていく。市民の皆さんに期待しています！



## 今と昔が溶け合う「茨木らしい景観」を次世代へと大切に継承する。

歴史的・文化的資源を有する在郷町エリア。茨木市は、地域の魅力向上や新たな価値創出につなげていくための取り組みを進めています。令和4年には「親子でめぐる在郷町今昔まち歩きツアー」を実施。歴史になじみのない子どもたちがまちをめぐり、エリアの特徴や変化を知ってもらうことが目的です。変わりゆく中心市街地の中にある古くから残る貴重なまちなみ。まずは、エリアの愛着醸成につながる取り組みを重ねることにより、価値を共有し、共感の輪を広げていきます。



大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学専攻 助教

松本邦彦 先生 / Kunihiko Matsumoto

都市の魅力をつくる要素の一つに「時間」の価値があります。使い込んだ物や道具に愛着が生まれるように、まちの魅力も暮らしの蓄積により磨かれていきます。日々町並みは変化していきますが、他でもない茨木らしさを支えているのは「時間」の価値です。おにクルなどの「新しさ」とともに、在郷町の「時間」がまちなかのこれからの魅力を育てていくはず。在郷町での様々な取り組みが、それを後押ししていくことを期待します。

中心市街地活性化に向けた  
検討開始

◎ 茨木市市民会館 H27.12 閉館

◎ 市民会館 100 人会議



市長と市民が「対話」する「市民会館100人会議」。透明で公平・公正な市政を基本に「確かな未来ミーティング」という対話の仕組みを構築。

◎ クラウド会議



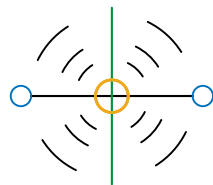
市民会館跡地エリアの活用、中心市街地の活性化に向けて、地域活動を実践する人たちとともに、活動の場や機会創出の可能性を検証し、「しくみづくり」につなげていく。

◎ リノベのいばらきプロジェクト



「DIY」や「リノベーション」をコンセプトに、DIY工房の運営などを通して活動人口の創出・増加を進める取り組み。

次なる茨木ランドデザイン構想



2 CORE 1 PARK

茨木市では、阪急茨木市駅とJR茨木駅の両駅周辺エリアを「コア」、市民会館跡地エリア、中央公園、元茨木川緑地周辺のエリアを「パーク」と位置づけ、「2コア1パーク」による都市構造の実現に向けた、事業や取り組みを推進し、中心市街地の活性化を目指しています。

「点」から「線」さらに「面」へと広げる

プロセスから導き出す「まちづくり」

活動や体験から生まれた発見や成果を更新し続ける

イバラキクラウド

人と人、活動をつなぎ、みんなと一緒に作りあげる

◎ 茨木市市民会館跡地エリア 暫定広場

IBALAB



市民会館跡地エリアに期間限定の芝生広場を設営。実際に使うことによって使い方、過ごし方などの様々な可能性を検証していくための社会実験。



茨木市中心市街地活性化基本計画  
「まちづくり会社 FIC ベース」設立

R1 策定

元茨木川緑地  
リ・デザイン計画

R1 策定

◎ アートの活用

CACOIBA

元市民会館の解体工事の仮囲い（工事現場の壁面）を使ったアートプロジェクト。



◎ モトイバ市民ワークショップ



開設から40年の経過ともなう元茨木川緑地の課題解決に向けて、多様な分野の人たちと一緒に検証を行い、新たな価値創出を目指す。

real SOU

中心市街地の空き店舗を展示場所として利用し、アートと日常空間の関係、空き店舗活用の可能性などを問いかける。



2018年より継続的に開催 →

◎ 大学との連携

阪急本通商店街「屋台祭り」



阪急本通商店街にて立命館大学の学生たちが創造性の高い「屋台」を各所に生み出し、商店街の新たな可能性を導き出す。

都市デザイン・ランドスケープ演習



立命館大学オープンスペース研究会と連携し、「人と自然がつながる暮らし」をテーマに生物多様性や公共空間の再編等、都市デザインに関する提案を実施。

2020年より継続的に実施 →

IBALAB plus



IBALABにおける、さまざまな活動や取り組みの実践から得られた知見を活用し、広場に限らず「まちなか」の様々な空間での展開を検証する試み。



IBALAB@ 広場



はじめてから完成した場所とせず、「つくって」「つかって」を繰り返し、ルールも設えも都度検討しながらアップデートしていく広場。

R3  
2021

JR 茨木駅西口駅前周辺  
まちづくりビジョン  
R3 策定

R4  
2022

◎ JR 茨木駅西口周辺まちづくりワークショップ



JR 茨木駅西口駅前周辺が「どのようになればいいか」を多様な人たちと一緒に考え、提案し、今後の再整備に役立てていくためのワークショップ。

R5  
2023

モデル地区整備



R6  
2024

次なる茨木グランドデザインを  
次のステップへ

中心市街地の将来像を描くため、多様な主体とともに積み重ねてきた「活動のプロセス」を最大限に生かす。

人が中心のまちに

「人々」が出会い  
新たな価値が  
生まれる

思い思いの  
「活動」が  
繰り広げられる

多様性に満ちた  
さまざまな  
「場所」がある

活動が景色となるまちなかを目指す。

◎ モトイバ緑地空間の活用「BOOK TRAVEL」「茨木蚤の市」



◎ いばらきストリートデザインワークショップ



中央通りと東西通り。メインストリートの将来像などを、さまざまな角度から検討し、より多くの人を訪れ、滞在し、活動したくなる「まちなか」の実現へとつなげる。

◎ 魅力的なメインストリートづくりに向けた社会実験



行政と市民、沿道の事業者が一緒になって、ベンチや遊具などのファニチャーを各所に設置。

イバラキ  
クラウド

次なる茨木グランドデザイン「イバラキクラウド」編集～可視化

活動のプロセスを可視化するための冊子媒体を発行

次なる茨木グランドデザイン

vol.1

vol.2

vol.3

プラットフォーム化

新たな参加者、担い手との出会い

ネットワーク化

人と人、活動と活動をつなげる

◎ カフェ・チャレンジショップの運営



広場における多様性、  
活用のバリエーションを広げる

◎ 多様な活用の広がり



多様な人たちが活用することで、  
広場とともに人を育てていく

◎ 新たな担い手の発掘



◎ 新施設開館プレ事業「つむぐ。おる。」



新施設開館に向けて、プレ事業を実施。おにクルに入る機能を中心として、関わる人や活動等の資源を「糸」、糸同士の掛け合わせ、連携を「織物」に例え、人や活動を育み、新たな場の創出を目指す。

◎ 新施設「おにクル」オープン



おにクルから  
「面」へと広がる  
2コア1パーク構想の  
さらなる深化

活動の広がり・連携

おにクルから次へ広げる



茨木市 都市整備部 都市政策課

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13

電話：072 (620) 1660 メール：toshi@city.ibaraki.lg.jp



次なる  
茨木へ。

